

道標

今治市立桜井小学校に6年間通い、3人の担任の先生にお世話になった。3年生以降になると理科と音楽、5、6年生の家庭科の先生は、自分の担任でなく、それぞれの教科を担当する先生方であった。中学以降では、教科担任とクラス担任が違うことは当然かもしれないが、小学校で理科、音楽、家庭科の先生に教えていただいたこと、それも30年以上前にといいるとに驚く。

これまで、東北地方や愛媛県を中心に10県近くの小学校で出前講義を行った。今治市近郊を除くほとんどの小学校では、クラス担任の先生が高学年でも全ての教科を教えている。もちろん理科も例外ではない。小学校の中学年から理科の先生に習っていた自分には不思議であり、ショックであった。義務教育だから、日本全国同じ

愛媛・今治の理科教育

専科の仕組み模範に

形式での授業と思っていたが、違つては。

自分の小学校時代は、授業と授業の合間や放課後、夏休みなど、運動好きな子供は外へ。本が好きな子供は図書

渡辺 正夫



東北大大学院
生命科学研究所教授

も最初のころは観察であったが、高学年になれば、化学反応など試薬を使う。少し難しい試薬の名前を覚えることのできた。時間のある放課後などには、試薬を水に溶かし、化学反応実験を行い、実験すべてが心をわくわくさせた。こうした理科準備室、理科室での理科の先生との交流が、科学への興味を高めてくれた。こう考えたとき、全国の小学校に理科専科の先生が配置され、理科好きの子供の心を刺激することができれば、理科離れをどれほど回避できるかと、ふと感じ

室へ。そして、理科が好きな子供は理

科室・理科準備室へであった。運動が苦手であった自分は理科準備室の先生の元へ。当時はたくさんの標本や実験器具、試薬などがあり、理科や自然好きの子供にはいろいろなものがそろった小さな博物館であった。理科

る。

こうした理科の先生のもうひとつの顔を見ることができたのが6年生の時に参加した月1回の「今治自然科学教室」であった。笠松山、高縄山での自然観察、川内・滑川での化石探索は強い印象として今でも記憶にある。自然

ふるさと伝言

の中で植生や化石のきれいな取り出し方など、教科書の域を飛び越えてわき上がる疑問にも答えてくれた理科の先生方の姿は、博学であるとともに、「すごい科学者」そのものであった。この活動が時を超え、今も継承されていることには感激と感動を覚える。一卒業生としてできるだけのサポートをしたいと考えている。

学校という点から見るとき、理科室と校外学習は日常と非日常かもしれないが、どちらの場面でも科学を楽しむこと、自然を研究し、学ぶことを教えていただいた「愛媛・今治の理科教育」があればこそ、今の自分があるのだと実感する。また、愛媛県内の高校理科の先生から、今治市内の高校で理科の点数が高いのは、今治自然科学教室の取り組みが一つの要因だと拝聴したことがある。これらを合わせて考えたとき、理科専科の仕組みや今治自然科学教室がこれからも継続・発展し、日本の小学校理科教育のモデルになればと願うばかりである。

(わたなべ・まさお、今治市生まれ)